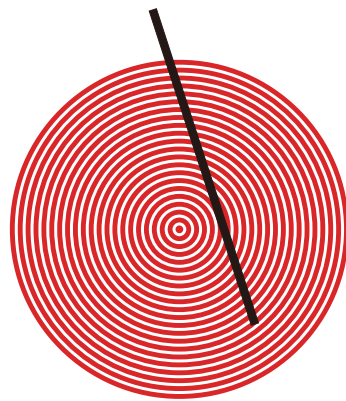


第23回文化庁メディア芸術祭 **作品募集を開始！**

2019年8月1日（木）から10月4日（金）まで

時代を映し出す新たな表現を募集します。

新たにソーシャル・インパクト賞とU-18 賞を増設。



23rd JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL

第23回 文化庁メディア芸術祭

この度、文化庁は、「第23回文化庁メディア芸術祭」の作品募集を2019年8月1日（木）～10月4日（金）まで行います。

アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門で過去1年間（2018年10月6日～2019年10月4日）の間に完成または、すでに完成してこの期間内に公開された作品を対象に、プロ、アマチュア、自主制作、商業作品を問わず、世界中から広く作品を募集します。

応募作品は審査委員会による審査を経て、各部門の大賞、優秀賞、新人賞、審査委員会推薦作品と功労賞を2020年3月に発表する予定です。また、未来を観せるフェスティバルとして多様な作品を顕彰するために、今回から新たにソーシャル・インパクト賞とU-18 賞を増設しました。

文化庁メディア芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。平成9年度（1997年）の開催以来、高い芸術性や創造性をもつ優れた作品を顕彰し、受賞作品等の展示・上映や、シンポジウム等の関連イベントを実施する受賞作品展を開催しています。第22回は、世界102の国と地域から4,384作品の応募があり、文化庁メディア芸術祭は国際的なフェスティバルへと成長を続けています。また、文化庁では、メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的に、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を国内外で広く紹介する多彩な事業を実施しています。海外・国内展開や創作活動支援等の関連事業を通じ、時代を見据えたフェスティバルを目指しています。

募集期間：2019年8月1日（木）～10月4日（金）日本時間 18:00必着

文化庁メディア芸術祭 [受賞作品展・コンテスト] ウェブサイト <http://festival.j-mediaarts.jp>

報道問合せ先

文化庁メディア芸術祭コンテスト事務局 [CG-ARTS内] 広報担当 瀬賀

Email : jmaf-pr@cgarts.or.jp

Tel : 03-3535-3501 Fax : 03-3562-4840 ※受付時間：平日10:00～17:30

〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-16

1. 第23回文化庁メディア芸術祭 募集概要

文化庁メディア芸術祭 [受賞作品展・コンテスト] ウェブサイト (<http://festival.j-mediaarts.jp>) より御応募ください。
必要情報を入力し、審査用資料のデータをアップロードすれば完了です。

※詳細は、文化庁メディア芸術祭 [受賞作品展・コンテスト] ウェブサイト、募集要項で御確認ください。

募集部門 アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門が対象です。

アート部門

テクノロジーとともに新たな価値観を探り、批評的な視点をもつ様々な表現

インタラクティブアート、メディアインスタレーション、映像作品、映像インスタレーション、グラフィックアート（写真を含む）、ネットアート、メディアパフォーマンス等

エンターテインメント部門

「面白さ」、「楽しさ」とは何かを問い、遊びや体験をつくり出す多種多様な形式の作品

ゲーム（テレビゲーム、オンラインゲーム等）、映像・音響作品、空間表現（特殊映像効果・演出、パフォーマンスを含む）、プロダクト（メディアテクノロジーを活用した製品、研究開発デバイス等）、ウェブ・アプリケーション等

アニメーション部門

豊かな物語性や個性的な表現力をもった、完成度とオリジナリティを極めた作品

劇場アニメーション、短編アニメーション（オープニング映像、エンディング映像等を含む）、テレビアニメーション、ネット配信動画等

マンガ部門

単行本で発行されたマンガをはじめ、ネットや電子媒体による発表形態の多様化に伴い、マンガの可能性を拡張するような作品

単行本で発行されたマンガ、雑誌等に掲載されたマンガ（連載中の作品を含む）、コンピュータや携帯情報端末等で閲覧可能なマンガ、同人誌等の自主制作のマンガ等

応募条件 作品が下記に該当するかを必ず確認の上で御応募ください。

2018年10月6日（土）から2019年10月4日（金）までの間に完成または、

すでに完成してこの期間内に公開された作品。

※更新、リニューアルされた作品で上記期間中に完成、又は発表された作品も応募可能です。

※応募する作品数に制限はありませんが、同一の作品を複数の部門に重複して応募することはできません。

応募者は作品の著作権を有することが必要です。

代理の方が応募する場合は、必ず著作権者に承諾を得てください。

※応募申込みをもって、応募者及び作者の同意を得られたものとします。

※募集要項・文化庁メディア芸術祭 [受賞作品展・コンテスト] ウェブサイトに記載された応募規定を必ずお読みいただき、同意の上で御応募ください。

各 賞 受賞発表は2020年3月を予定しています。

審査委員会による審査を経て、部門ごとに大賞、優秀賞、新人賞を決定し、それぞれに賞状（文部科学大臣賞）、トロフィー、副賞（大賞100万円、優秀賞50万円、新人賞30万円）が贈られます。

また、未来を観せるフェスティバルとして多様な作品を顕彰するために、今回から新たな賞を増設しました。

メディア芸術祭賞（文部科学大臣賞）

大 賞：賞状、トロフィー、副賞100万円

優 秀 賞：賞状、トロフィー、副賞50万円

新 人 賞：賞状、トロフィー、副賞30万円

功 労 賞：賞状、トロフィー

新設 ソーシャル・インパクト賞：賞状、トロフィー、副賞 50 万円

社会の中に実装され、メディアテクノロジーのあり方や人々の行動様式などに新たな変化をもたらし、大きな影響を与えた作品に対して贈られます。

新設 U-18 賞：賞状

下記の応募資格を満たしている作者による作品の中から、優秀な作品に対して贈られます。

対象資格：西暦2002年4月2日以降に生まれた方

このほか、優れた作品を審査委員会推薦作品として選定します。

また、審査委員会の推薦により、メディア芸術分野に貢献のあった方に対して功労賞を贈呈します。

受賞作品は国内外で広く紹介されます。

文化庁メディア芸術祭での受賞は、海外のフェスティバルへの出展や創作活動の支援等、関連事業を通じた新たな活動にもつながります。「文化庁メディア芸術祭地方展」では、受賞作品を中心に優れたメディア芸術作品を国内各地で展示・上映し、「メディア芸術海外展開事業」では、海外のメディア芸術関連のフェスティバル等で受賞作品等を紹介します。

また「メディア芸術クリエイター育成支援事業」では、文化庁メディア芸術祭において受賞もしくは審査委員会推薦作品に選ばれた若手クリエイターを対象とし、新しい作品の企画を募り、制作費の支援や専門家によるアドバイスの提供等、創作活動を支援するとともに、海外の優れたクリエイターを招へいし国際交流を推進します。



アムシー国際アニメーション映画祭2018 企画展



文化庁メディア芸術祭須賀川展「創造のライン、生のライン」
(平成30年度)



平成30年度メディア芸術クリエイター育成支援事業

2. 文化庁メディア芸術祭について



第22回文化庁メディア芸術祭 受賞作品展の様子

■ 同時代の表現の諸相をうつす“メディア芸術”

新しいメディアとともに発展する表現＝「メディア芸術」。メディアテクノロジーの発達によって拡張を遂げる作品は、既存の表現領域に留まらない新たな文化を創成するとともに現在のテクノロジーや社会状況に批評的な視点を与え、多様化する価値観に対し想像力の共有をもたらします。「メディア芸術」は、次代に続く文化を醸成する媒体として、同時代の表現の諸相をうつしだします。

■ ボーダレスに表現と向き合い、“現在”を見出すフェスティバル

文化庁メディア芸術祭は、情報技術やメディアの上に生まれる多様な表現活動に対し、“現在”を問い続けるフェスティバルです。世界各地から集う多数の作品は、情報技術やメディアの拡大と浸透によって変化する思考やコミュニケーションの様式を反映し、既存の手法や形式に留まらない多様な表現のあり方を提示します。本フェスティバルでは、時代とともに進化する表現に“現在”を見出し、優れたメディア芸術作品を顕彰するとともに、その鑑賞機会である受賞作品展を通じて、多彩な作品を広く紹介します。メディア芸術作品が有するリアリティや創造性には、同時代の芸術や文化をより深く理解するための新たな発見があるでしょう。

第23回文化庁メディア芸術祭 開催概要

作品募集	2019年8月1日(木)～10月4日(金) 日本時間 18:00 必着
受賞発表	2020年3月予定
受賞作品展	2020年9月19日(土)～27日(日)予定
	会場：日本科学未来館(東京・お台場)ほか予定

3. 時代を映し出す新たな表現を募集します。

第22回は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において、下記大賞作品のような多様な作品が受賞しました。

■第22回文化庁メディア芸術祭 大賞受賞作品

アート部門

『Pulses/Grains/Phase/Moiré』

サウンドインスタレーション

古舘 健 [日本]

300台を越えるスピーカーとLEDライトを使用した、大規模なサウンドインスタレーション。各個のスピーカーは一定の規則にしたがった単純なクリック音とLEDの発光しか行わないが、それらが鑑賞者を囲うように壁面一体に設置され、音と光が重層的に合わさることで、複雑なレイヤーが存在する新たな音響環境を形成した。



© Kouji Nishikawa

エンターテインメント部門

『チョコちゃんに叱られる!』

テレビ番組

「チョコちゃんに叱られる!」制作チーム [日本]

何でも知っている5歳の女の子という設定のキャラクター「チョコちゃん」が、素朴な疑問を明らかにしていく番組。チョコちゃんの着ぐるみは複数台のカメラで撮影されたうえで、放映時に頭部を3DCGのモデルに置き換える処理が行われている。置き換えられる頭部パーツは着ぐるみの頭部を精緻に3Dスキャンしたものであり、本当に顔のパーツが動いているかのような表現を、目や口の形を自在に変えることで実現。3DCGによってチョコちゃんというキャラクターが強い実在感をもって、スタジオでゲストと掛け合う様子が人気を博した。



© NHK (Japan Broadcasting Corporation)
All rights reserved.

アニメーション部門

『La Chute』

短編アニメーション

Boris LABBÉ [フランス]

ダンテ・アリギエーリの『神曲地獄篇』に着想を得た短編アニメーション。墨汁と水彩絵具による約3,500枚の絵をデジタル編集し、そこに弦楽奏の断片的な響きと電子音によるオリジナルの音楽が重ねられる。混沌と混乱、調和と独自の美を生み出し、ミニマルアニメーションとして隙のない、非常に完成度の高い作品に仕上がっている。



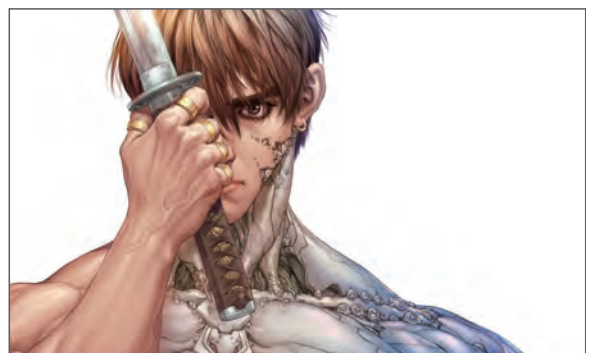
© Sacrebleu Productions

マンガ部門

『ORIGIN』

Boichi [韓国]

作品の舞台となるのは、あらゆる犯罪が流れ込む大都市となった西暦2048年の東京。人間に近い外見を持つ超高性能なAIを搭載したロボットたちと敵対する主人公オリジンの戦いを、細密な書き込みと高い画力により描写した。細部まで描き込まれたSF設定と、ハードボイルドな世界観が、読者を強く惹きつけている。



© boichi, Kodansha 2019

4. 第23回文化庁メディア芸術祭実行委員会 (予定)

会長 宮田 亮平 (文化庁長官)

運営委員 建畠 哲 (多摩美術大学長), 古川 タク (アニメーション作家)

審査委員 **アート部門**

秋庭 史典 (美学者/名古屋大学准教授)

阿部 一直 (キュレーター/アートプロデューサー/東京工芸大学教授)

池上 高志 (複雑系科学研究者/東京大学大学院総合文化研究科教授)

ゲオアグ・トレメル (アーティスト/研究者)

ほか

エンターテインメント部門

川田 十夢 (開発者/AR 三兄弟 長男)

齋藤 精一 (株式会社ライゾマティクス代表取締役/クリエイティブディレクター)

中川 大地 (評論家/編集者)

ほか

アニメーション部門

宇田 鋼之介 (アニメーション監督・演出)

佐藤 竜雄 (アニメーション監督・演出・脚本家)

須川 亜紀子 (横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院都市文化系教授)

横須賀 令子 (アニメーション作家)

ほか

マンガ部門

表 智之 (北九州市漫画ミュージアム専門研究員)

川原 和子 (マンガエッセイスト)

白井 弓子 (マンガ家)

西 炯子 (マンガ家)

ほか

選考委員 **アート部門**

伊村 靖子 (情報科学芸術大学院大学講師)

渡邊 朋也 (美術家/タレント)

ほか

マンガ部門

おぎの ひとし (マンガ家/東京工芸大学助教)

小田切 博 (フリーライター)

倉持 佳代子 (京都国際マンガミュージアム研究員)

西原 麻里 (愛知学泉大学講師)

松田 尚正 (マンガ家)

三浦 知志 (尚綱大学准教授)

ほか

文化庁メディア芸術祭総合ウェブサイト <http://j-mediaarts.jp>

文化庁メディア芸術祭 [受賞作品展・コンテスト] ウェブサイト <http://festival.j-mediaarts.jp>

Facebook <https://www.facebook.com/JapanMediaArtsFestival>

Twitter @JMediaArtsFes

主催 文化庁メディア芸術祭実行委員会

報道問合せ先

文化庁メディア芸術祭コンテスト事務局 [CG-ARTS内] 広報担当 瀬賀

Email : jmaf-pr@cgartarts.or.jp

Tel : 03-3535-3501 Fax : 03-3562-4840 ※受付時間: 平日10:00~17:30

〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-16